

令和2年度

(1) 学力向上アクションプラン

1 学校の状況と地域の実態

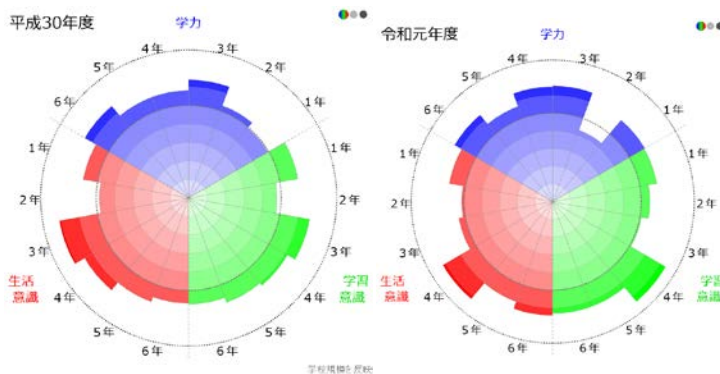
- 全体的に高い理解度を示すが、個を見ると学習の定着に差がある学年も多い。
- 地域と学校との連携は課題。学習を通して、地域愛を育み、地域とともに生きる子の育成を目指す。
- 教員は個人だけでなく、学校全体で授業改善に向けて取り組んでいる。
(育てたい資質・能力の共有、各教科での手立ての研究や授業改善等)

2 今後3年間の方向 (中期学力経営方針)

(2) 学力向上に関する指導の目標・方針 (令和3年度末の姿)

- ・子どもが主体的に学習に取り組めるような授業づくりを推進し、表現力の向上を図りながら学力向上に努めます。
- ・一人ひとりが自分に自信をもち、楽しく生き生きと学校生活がおくれるようにします。
- ・自分の健康に関心をもち、一年間元気に過ごせるようにします。
- ・地域との連携をはかり、子どもたちがまちの人とのつながりを大事にし、まちで生きる子どもを育てます。

3 横浜市学力学習状況調査等からの令和元年度の実態把握



(1) 学力の概要と要因の分析

全体的に、子どもの学力は高くどの学年も基準値を超える水準であるが、学年によっては、基準値を下回っているところもある。基準を超える学年では、学習意識と学力の関係性が見え、意識が高い後学力も高くなっている。また学力が基準を下回る学年も、学習意識は高くなっているため、児童の学習意欲を定着につなげられるよう、指導を工夫していく。

(2) 教科学習の状況

- 国語: ほとんどの学年が基準値を上回っており、重点研究の成果が表れている。
- 算数: 中学年の数学的な考え方が基準値を大きく上回っており、学習意識の高さが学力につながっている。また高学年の知識・理解が全体で基準値を上回っており、少人数指導の成果が表れている。
- 社会: どの学年も思考判断表現力が基準値を上回っており、情報を整理して、適切に表現する力が育っている。さらに知識と技能を一体化させた指導を行い、生きて働く知識の獲得を目指す。
- 理科: 全般的に基準値を上回っている。またどの学年も技能が高く、実験や観察など体験的な授業の充実の結果と考える。

(3) 経年変化の状況と要因の分析 (学習・生活意識調査も含めて分析)

全体のグラフを俯瞰してみると、三要素の関連性がみてとれる。学力については、例年高い水準が保たれている。系統立てた、学校全体での指導が実を結んでいる結果と考える。学習意識も全体で高い水準であるといえる。保護者、地域と連携し生活意識を改善し、さらに深い学び・主体的な学びにつながる指導を続けていく必要がある。

4 令和2年度 目標と具体的方策

主体的に課題解決に向かい、学び合う学習活動を通して、
自分の考えや思いを深めていく子どもの育成

(1) 授業力向上への取り組み

問題解決学習に向けて

- 身に付いた知識や理解を活用し、新たな場面で解決していく能力を育成するため、子どもが切実感をもって解決したいと感じる学習の問題を多く取り入れていく。
- 国語科のみならず、算数科や社会科、理科の学習において、「ノート指導」を充実させ、自分の考えや友だちの考えを書き込む活動を通し、論理的思考力、筋道たてて考える力の育成に重点をおいた指導の展開を充実していく。
- 児童のコミュニケーション能力や表現能力のさらなる育成をねらい、全教育活動を通した校内研究を図り教師の児童理解や児童指導力、授業力を高める重点研究として今まで3年間、国語科の研究に取り組んできた。その研究を通して子ども達は少しずつ自分のことを語ることが出来るようになってきた。さらに四年目となる今年は相手意識や目的意識をもって学習したうえで、自分自身の成長をメタ認知できるような学習を積み重ねていく。

個に応じた指導の充実

- 個に応じた指導の充実を目指し、「補充的・基礎的・発展的指導内容」の活用による学力向上を図る。
- 発達障害のある児童への授業における指導・支援の研修を実施し、特別支援教育の充実を目指す。

(2) 学校組織としての取り組み

一部教科担当制の推進

- 中学年以上で、積極的に一部教科担当制を積極的に導入し、授業の専門性をより高くすることで、児童の資質・能力の向上を目指す

特別支援教育の充実

- 授業の一斉指導に個別に支援が必要な児童には、保護者と相談の上、取り出し指導や授業に一緒にサポートをしていく。

少人数制による学習

- 高学年の算数科指導では、少人数体制を組み、単元や題材の特性、習熟の度合いなどを加味して、学習内容の確かな定着と発展を図り、発展的な学習や適用問題などを多く取り入れながら指導の工夫をしていく。

読書活動の充実

- 図書ボランティアによる休み時間や朝読書における読み聞かせや、学級での週に2回の全校一斉の朝読書において読書量を伸ばしながら、読解力の向上に努める。また、司書教諭による図書館の整備により本に親しむ雰囲気づくりを進める。

小中連携事業の推進

- 学びの連続、適正な進級・進学を目的とした小中一貫教育の実証的な教育連携を行う。
- 昨年度作成した9年間を通して育てる子ども像を検証しながら、より確かな学力向上をねらい、美しが丘中学校、美しが丘東小学校との3校の連携を深めていく。

いじめに関する対策

- 校長のリーダーシップのもと、いじめの未然防止や早期発見、早期解決に組織的に取り組み、いじめのない学校にしていく。
- 全校朝会で、いじめのない学校にしていくことを子どもたちに投げかけ、一人一人が相手の気持ちを尊重して生活するよう話をする。
- いじめの早期発見に努め、事案が発生したら担任、学年、専任、管理職で早急に共通理解し、いじめ対策防止委員会を開いて対応を協議し、迅速な解決を図る。